

Vol.30
中高生の能力が開花した発表会

中高生が最先端のテクノロジーを使って郡上の地域課題に挑戦する「郡上市地域ICTクラブ」のPBL&ICT講座の発表会が、昨年12月22日に開催されました。

9月から始まった講座は、地域でさまざまな活動をしている課題提供者の協力を得て、「多世代が交流し参加する」テーマとフィールドを設定する『ふるさと教育』と『課題解決型学習(PBL)』を取り入れて進められました。26人の中高生が自発的に参加し、発表会までに7回の講座と自主活動で、最新テクノロジーを知り、地域課題について学びを深めてきました。発表会まで約3ヵ月という短い期間でしたが、中高生たちが「知ること」を楽しみながら真剣に課題と向き合いプログラミングに挑戦する姿は、サポートする大人たち



システムの概要や実際のアプリの動作も発表



身近な人や環境の助けになりたい想い

ちの胸を熱くしました。発表会で披露した内容は次の通りです。
【高齢者支援】お年寄りが力仕事に困らないよう「重い農作物も運べるドローン」を各地域に設置する
【地域交通】親の送迎の負担を減らす「ヒッチハイクができるアプリ」
【河川環境】ゴミがないか見守る人の負担を減らす「パトロールドローン」と「ゴミ判別の機械学習」
【看護支援】神経をはりつめながら長時間労働をする看護師さんの負担を減らす「患者見守りドローン&アプリ」
【狩猟】GPS情報で仲間や獲物の位置を確認したり、声を出さなくてもコミュニケーション



質問や意見にも堂々と答えました

「シヨン」とれるアプリ「地域通貨」「ありがとう」「やったね」「いいね」を形にして送りあう学校通貨アプリ
【教育】自分がわかりやすいと思う授業や板書を好きな時に何度でも見られる学習アプリ

どのチームも素晴らしい発表でした。世間で云われている漠然とした課題ではなく、自分自身が豊かな心で生きるためであったり、助きたい家族や地域の人々の具体的な顔に浮かんでいたからこそアイデアの秀逸さでした。

未来の郡上のリーダーとなる中高生の挑戦はこれからも続きます。ぜひ応援をお願いします！
 郡上市地域ICTクラブ
 (事務局HUBGURU)
 ☎ 67・92339



みんなよく頑張りました！

水柱

郡上市消防本部



消防車両の緊急走行について

救急車等の緊急自動車は、警光灯(赤色灯)とサイレンを装備しており、緊急走行をする際は警光灯を点灯し、サイレンを鳴らさなければなりません。

このため、警光灯またはサイレンのどちらかを切っていると、一般の車両と同じになり、道路交通法違反になってしまいます。



ため、現場まではサイレン等を切ることができません。

緊急自動車の特例

- 右側はみだし走行
- 信号機等停止すべき場所での停止免除
- シートベルト着用の免除
- 最高速度の適用緩和

この他にも、緊急自動車には約30項目の特例が認められており、さまざまなことが道路交通法で定められています。

緊急自動車が近づいてきたら！
 近づいてきたら！

緊急自動車が近づいてきたら、進行を妨げないように進路を譲ってください。

● 道路の左側に避けて停車

● 見通しが悪いカーブの手前での停車は避ける

● 交差点では交差点内を避けて道路の左側に停車

おまごころ

たとえ、救急車で搬送されている人の身内であっても、救急車の後ろを追走し、信号無視などを行うことは、道路交通法違反となります。また、追走することで、他の事故をひき起こすことにも繋がるため危険です。

交通ルールを守り安全運転に心がけてください。
 市民のみなさんごの理解、ご協力をお願いします。



☎ 問 消防本部
 67・0119